

八木原諏訪神社の太々神楽

100周年記念奉納
4月17日(日)午前10時



神社関係



舞子会



八木原自治会

【八木原太々神楽演目表】

開始時刻	演目	備考	開始時刻	演目	備考
10:00	清メ		14:00	恵比寿	1座
10:15	大幣	1座	14:15	羯鼓	2座
10:30	大麻	1座	14:30	両刀	1座
10:45	伊佐那岐	2座	14:45	受持	1座
	伊佐那美		15:00	白狐	5座・餅まき
11:00	猿田彦命	2座	15:30	八幡	2座
11:15	岩戸	4座・餅まき	15:45	水神	2座
12:00	休憩		16:00	金山	2座
13:00	御子	1座	16:15	蛇退治	4座
13:15	一本刀	1座	17:00	荒神舞	1座
13:30	円像	1座	17:15	国固	1座・餅まき
13:45	片鉾	1座	※開始時刻は予定です		



写真の舞い／①白狐 ②恵比寿 ③羯鼓
④岩戸 ⑤蛇退治 ⑥両刀

【八木原太々神楽100年の歩み】

西暦	和暦	主な動き
1580年	天正8年	八木原諏訪神社を創建
1922年	大正11年	神社の氏子が榛東村新井・八幡宮の太々神楽師匠から指導を受け、太々講を起す ※この太々神楽は前橋市総社町の総社神社が始祖
1923年	大正12年	春の例大祭で太々神楽を初奉納
1929年	昭和4年	社殿の南東に神楽殿を造営
1970年	昭和45年	舞子会への入会条件「農家の長男だけ」を撤廃
1992年	平成4年	奉納70周年で36座を録画撮影
1994年	平成6年	拝殿屋根の銅板ふき替えと玉垣築造
1997年	平成9年	蛇頭の面1回目の修理 市が八木原太々神楽を「重要無形民俗文化財」に指定
2013年	平成25年	清メの衣装2着(緑、白)と下着を更新
2018年	平成30年	蛇頭の面2回目の修理
2020年	令和2年	春の例大祭の八木原太々神楽はコロナ禍で中止 太々神楽衣装を新規あつらえ
2021年	令和3年	春の例大祭の八木原太々神楽はコロナ禍で中止
2022年	令和4年	神楽殿の改修 八木原太々神楽100周年

【会場周辺図】



※駐車場はありません。公共交通機関を利用してください

この先の100年に向けて

八木原太々神楽の最大の特徴は、伝えられた36座の舞いを毎回奉納しているところです。このように開催できていることは、全国的に珍しいと誇りに思っております。舞いは、午前10時から午後5時過ぎまで奉納しますが、多くの人に来ていただいて、時間の許す限り楽しんでもらいたいです。



八木原太々神楽
100周年事業実行委員会
委員長 外丸 陸夫さん
(八木原)

今回、100年の節目を迎えますが、この先の100年のために衣装の更新や神楽殿の改修などを行いました。さらに、舞いやお囃子の動画を作成し、初心者が練習しやすいように整備していきます。これらの事業を実施するに当たって、地元の皆様から多くのご寄附をいただきました。この地に伝わる伝統芸能を後世に残していこうとする、多くの皆様の熱意を強く感じております。本当にありがとうございました。

受け継ぐ36座の舞

八木原諏訪神社の太々神楽は、男舞21座、女舞15座の計36座で構成されています。県内に1000以上の神社がある中で、約4分の1ほどが神楽殿を有しているといわれていますが、奉納舞いの全てを実践している神社は、減少し続けている状況です。

100年の歩み

大正11年2月、八木原諏訪神社の氏子が、榛東村新井の師匠から舞いやお囃子を習い、太々神楽講を発足しました。翌大正12年には、神楽面や装束、楽器などを整え、4月12日の八木原諏訪神社春祭りに初奉納しました。以来100年間奉納を続けています。

1923(大正12)年に初めて奉納された「八木原諏訪神社の太々神楽」。今回で100周年を迎えます。当初から形を変えることなく引き継がれている36座の舞いが、4月17日(日)に奉納されます。詳しくは、100周年事業実行委員会委員長の外丸陸夫さん(☎070(1508)6265)へ。

舞子会の活動

舞いは、地元の有志で組織する舞子会で受け継いでいます。現在30人の会員が所属し、そのうち30歳代から50歳代の会員が4割近くを占め、伝統芸能の継承に対応しています。舞子会は、舞いやお囃子の練習のほか、五色の千代紙や半紙を細工して、小道具の準備も行います。この舞子会の活動を、八木原諏訪神社傘下の町総代(10人)と敬神婦人会(9人)のほか、地元自治会や八木原地域で活動している八木原風俗習慣保存会の人たちが、強力にサポートしています。